

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

アイリーフ当新田

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体の会社は、医療看護師とリハビリ専門の職員を雇用して、有料老人ホームに配置して、医療・リハビリ・介護の3本柱で、病気や障害を抱えている人をケアしていくことにより、人間回復をしていくよう日々努力している。このような仕事を職員は楽しんで取り組んでいるのが、この会社の特長である。

事務長は自分の母親を見ていたが、利用者にとって最も適したグループホームを作りたいと、母体での実績を反映させて、平成15年6月に設立させた。

各事業所が参加する『改善コンクール』が毎年実施されている。各職場の持っている課題を取り上げ、その中から改善している具体的内容をテーマに選定し、毎年度12月に中間発表を行い、3月に本発表をして評価を受ける。このコンクールは職員にとって大変力が入るものだそうだ。このような経験から、職員の資質が向上していき、仕事にメリハリがついていき、ホームの目指す“温かい家庭の雰囲気そのままに”の理念を実現していくのだろう。

脳の働きから人間の生きる機能を考えたことがある。生きる機能、人間として生きる機能、自分らしく生きる機能、この3つの機能は誰でも持っているが、この3つの機能を生活の中で組み合わせて私たちは生きている。

まず、生きる機能とは、食べたり、排泄する。歩いたり、走ったりして移動できる。身体的に活動していく最低限の機能と云える。グループホームの中で、この機能を失わないよう、日頃からリハビリしていることである。

次に、人間らしく生きる機能は、自分と他人の関係を考え、一定の秩序と規律を持ってお互いを尊重して生活する事である。グループホームでは、食事の準備をしたり、洗濯物を片付けたり、一緒に食事をする。皆でお話をする、皆で共同で作品を作るといように、人に役立つことをして、皆で楽しい生活を送ることで、この生活が基本である。

最後に、自分らしく生きる機能とは、単的に言えば、わがままと言える事だろうと思う。自分はこれをしたい、これが食べたい、こんなところに行きたい、一人で過ごしたいと云うように、人の事は考えず、自分の意志や思いをはっきり言う、実行する生活である。

グループホームで生活していることは、この3つの機能がうまく調和されていると思う。そして、“温かい雰囲気をそのままに”が発揮できているのだろう。

特に改善の余地があると思われる点

利用者の“心の通い”ができるコミュニケーションについて実践してもらいたい。ホームの中で職員と利用者の交わすコミュニケーションは情報の伝達又は交換が殆んどだと思う。一日に一人の職員が利用者として10～15分間、ちゃんと向き合って話ができる機会をつくって、利用者の心の中を知ってもらいと、新しい利用者像が見つかると思う。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はないが、このホームの理念とする特長を地域の中に、より浸透させていきたいと考えている。このホームの良い所、目指す方向を明確にしておく事は、色々な面で役立つと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームの理念として「暖かい家庭の雰囲気そのままに」を掲げている。利用者それぞれに「その人らしく生活出来るようなホームにしたい」と職員は皆で考えている。職員の詰所の壁に「プロの考え、プロをつくる」の10ヶ条が掲げられていた。プロ意識を高める項目があった。グループホームの介護者はプロであり、病院や施設あるいは家庭で、薬漬けになったり、人間性を失い、廃用化されて、不安不信の塊の人間になった人の人間回復させてあげる事が出来る。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はない。現在の建物及び設備、周辺環境を生活に生かしていくソフト面の改良をしていけば、尚更価値ある生活が出来るだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：住宅街の中に建つホームで、静かな環境である。地域のエコマップを作った。幼稚園・地域のお祭り・地域の人々の来訪等との関わり方を示すもので、地域の関係者にも喜ばれている。</p> <p>ホームの玄関には、犬が出迎えてくれる。利用者とも馴染みの仲間、19人目のメンバーである。</p> <p>1、2階に2つのユニットがあり、広々としたスペースのリビングルームでは利用者がゆったりと好きな人同士で過ごせる場所がある。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアサービス全般について職員間でいつでも話し合い、情報を共有して、利用者に対するケアについては問題ない。しかし、一つひとつの項目について、改良には限界なしという考え方から、利用者の人間性改善に努力している。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者の不自由なところ、出来ない部分のみを支援するようにしているが、自分で出来るところを見つけ、増やしていこうとしている。身体的・精神面でのリハビリに努め、その機能を伸ばしていく事もしている。ちぎり絵・ぬりえ・刺し子等、利用者の出来る作品にも挑戦している。</p> <p>介護計画と記録は、利用者一人ひとりのホームでの生活のシナリオであり、その人の生活してきた足跡を表すものである。介護の目標を定め、モニタリングの中からその成果が読み取れるようなシステムも取り入れ、最小限の労力で、効果の高い記録の改善もしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はないが、地域との関わりについて、現在よりもっと踏み込んだ付き合い方をしていきたいと考えている。家族や地域との連帯はホームにとって大切だと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：母体の会社とグループホームの連帯もしっかりしており、協力関係にある医療法人もあり、職員の研修や業務改善に対する意識は高い。毎年度の事業計画もしっかり立案して、実行している。</p> <p>職員ミーティングにおいても、職員がどんどん発言出来る環境にある。ホームに入所してから、職員の手厚いケアと心の通いによる精神的ケアによって、人間性を失っていた人が、表情や感情を表し、身体機能も向上して、人間回復させた事例も多い。ターミナルケアも5件の経験があり、これらは職員の連帯感の良さを物語っている。</p>		